たすけ合い
明るいあした
すぐそこに
－福祉標語入選作品から－

笠間市社協 宍戸支部だより

第125号
令和元年11月10日発行
発　行　笠間市社協宍戸支部長　雨谷　高市
編　集　宍戸支部広報委員会
印　刷　大塩企画

健全な青少年が育つよい地域づくりを目ざして　地区懇談会

情報を得て　安心の日々を

関心高く　参加者増える

青少年健全育成委員会担当の地区懇談会が6月22日から7月13日迄14会場を回り行われた。参加者は延べ365人。

講演テーマは

・高齢者の交通事故の現状と対策（笠間警察署交通課）
・自主防災対策（防災・減災）（笠間市総務課）
・住民同士が助け合う地域づくり（笠間市社会福祉協議会）
・地域の犯罪情勢と防犯対策（笠間警察署生活安全課）

で、この中から一つを各会場の行政区が選んだ。

講話の一部

〈笠間警察署交通課〉

高齢者が被害・加害者となる事故が増えている。7月4日迄の県内死亡者は55人でその中の6割が高齢者。

歩行中の事故は、道路を横断する時や夕方から夜間の外出時に多い。

車を運転中の事故は、アクセルとブレーキの踏み間違い。逆走行、車両相互の衝突、一時停止標識や信号の見落し等によるものが多い。

▲橋爪公民館で

夜間の歩行には反射材を着用し自分の存在を知らせる。

高齢になり運転に不安を感じたら、免許の自主返納をする。

池袋母子死亡事故の遺族の言葉「運転に不安のある人は、もう一度考えてほしい。車が人を殺すものであることを思い出してほしい」

〈笠間市総務課〉

笠間市は今のところ平和。運がいいだけ、今一度確認を。（非常時のもち出し品のチェック・わが家の連絡先・避難場所等）

地震時は、姿勢を低く頭を守り揺れが収まるまで待つ。

水害時、笠間市で警戒レベル3（避難準備・高齢者は避難開始）が出たら危険。

防災は情報・状況を把握し、早めの準備（避難）が大事。

〈笠間市社会福祉協議会〉

今後の超高齢化社会を見据えて身近で気軽に集える場所をつくり「住んでいる者同士で助け合う」地域づくりが必要。

まずはサロン（お茶のみ会）をつくり「健康づくり」等を目的に楽しく仲間づくりを。

〈笠間警察署生活安全課〉

ニセ電話詐欺の増加。ふり込めから、現金やキャッシュカードを取りに来る。に変っている。

友部駅前に4千万円を持って来させ、脇道に連れ込み現金の入ったカバン2つをひったくり逃走した。必ず誰かに相談し確かめることが大事。

笠間市では、トラック、建設重機の盗難が多発。ハンドルロックやGPS等の取り付けを。

笠間市社会福祉協議会からは、フードバンク（家庭に余っている食品を必要としている方々に役立ててもらう活動）の現状報告と、自立相談支援機関が、生活、仕事、健康、お金などに困っていることについて、解決に向け対応している。等の話があった。

宍戸小・友部中・友部高の先生方も参加した。各校共、一部に規範意識の低い生徒が見られるも、学習に運動に励んでいる。地域の方々には引き続き見守りを願いたい等を話した。

その中で宍戸小では、スクールサポーターの協力を得ている。友中では、自分を高めるスローガンを掲げ、思いやりの心を持って感謝することを実践。友高では、地域に愛され社会に貢献する人材育成を目指し、特色ある授業と部活動に力を入れている。

講演後の懇談会では、危険な通学路のこと、不審者情報に心配。免許返納も考えているが田舎暮らしなので悩んでいる。小中高生の生活態度等見ているが、すばらしい子に育っている。等多くの意見が述べられた。

ある高齢者は、懇談会はためになった。車は生活に必要不可欠。今後は健康に留意し法令を順守して、加害者にならないよう安全運転に徹する。と話していた。

たずねてみたら　No.100

地域とともにある学校づくりへ

宍戸小学校長
小松﨑智史先生

日頃より学校への温かいご支援、ご協力、ありがとうございます。

今、公立小中学校ではコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を立ち上げるための準備を進めています。コミュニティ・スクールとは、学校と地域が連携・協働してどのような子どもたちを育てるのか、何を実現していくのかという共通の目標をもち、育んでいく『地域とともにある学校づくり』を推進する取組です。

そのメリットや魅力とは、

① 持続可能な組織を作ります。

私たち教職員は数年後には異動します。いわば通り過ぎる風のようなものです。だからこそ教職員や保護者だけではなく、地域の皆さんと一緒になって子どもたちを育てていく、持続可能な組織が必要なのです。

② みんなで同じ目標をもちます

学校運営協議会や熟議（みんなで集まって意見や考えを出し合う場）を通して、宍戸小の子どもたちをどうやって育てていくか、何を実現していくかをみんなで考えます。

③ 役割分担し、協働します。

子どもたちが今抱えている課題に対して、みんなが当事者意識をもって役割分担し、連携・協働による取組を行います。

未来を担う子どもたちの豊かな成長のために、みなさんのお力をお貸しいただけますようよろしくお願いします。

自分でつくるおもちゃパズル

▲ものづくりに集中

8月18日小学生夏休みものづくりわくわく体験が宍戸支部会館で行われた。参加者は子ども28人・保護者6人・社協委員18人。

指導者は會澤和美さんと安達正男さんで、キュービックペーパーや広告紙で折ったゴミ箱と起き上がりこぼしを各々2種類作った。

低学年では難しい所も上級生が丁寧に教えた。キュービックペーパーの数字が揃うと「できたー」と大声を上げた。起き上がりこぼしを不思議そうに何度も倒してみたり、ごみ箱を頭にかぶる1年生。

ものづくりのあとは、市総務課近藤さんの防災の話。災害から命を守るためにを映像でわかりやすく説明があった。8年前の大震災の記憶はほとんどない子どもたちであったが、皆真剣に聞いた。

昼食は女性部役員手作りのカレーライス。ラムネも飲みスイカも食べた。

帰りにはおみやげを手に、来年も来ますと、会館をあとにした。

環境にやさしい最新鋭の石炭火力

常陸那珂火力発電所を視察

10月10日福祉推進員の視察研修があった。参加者は40人。

那珂郡東海村にある「常陸那珂火力発電所」と大洗町にある「大洗町幕末と明治の博物館」を訪ねた。

常陸那珂火力発電所は1号機（2003年12月運転開始100万kw）と2号機（2013年12月運転開始100万kw）がある。燃種は石炭で、合わせて出力は200万kw。60万世帯が使用可能。

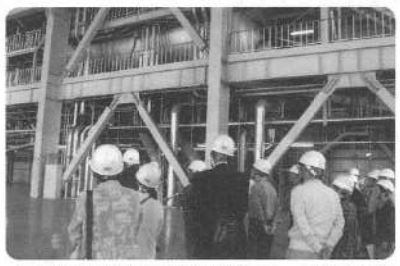
石炭を焼やすことにより発生する大気汚染原因物質（窒素酸化物・煤塵・硫黄酸化物）等は、それぞれの装置で除去され、クリーンガスとなって煙突から排出される。

また、2017年6月からは、木質バイオマス燃料を混焼することで、石炭の消費量とCO_2排出量を削減できている。

安定した電力の供給に有効な設備で、3号機（2021年運転予定出力65万kw）が着工中。

参加者の皆さんは、発電所社員の説明する汽力発電のしくみ等を耳をすませて聞いた。

大洗町幕末と明治の博物館では、水戸・薩摩の浪士が起こした桜田門外の変をはじめ、破壊と混乱を経て明治に至るまでの歴史の流れを認識した。



▲ヘルメットをかぶり、蒸気タービンを見る

第35回 GROUND GOLF 躍進の女子部

6月12日第35回宍戸地区高齢者グラウンドゴルフ大会が開催された。

予定日が1日遅れになり参加者は少なめの73人。

梅雨空が広がるが運動には最適となり、グラウンドコンディションも上々。選手の皆さんは日頃の練習の成果を披露した。

▲入賞者の皆さん

女子の部では、宮田久恵さんが前回に続いて優勝。

1位から3位までのスコアは、女子の部が一歩リードしたが、男女の技量の差はほとんど感じられない。ホールインワンは20人。

今回初めてコート2面を使用して行われたため、大幅な時短となり、参加者はとてもよかったと話していた。

表彰者（敬称略）

男子の部

1位	酒寄　方治	スコア34
2位	小坂井芳威	スコア35
3位	関　昇	スコア39

女子の部

1位	宮田　久恵	スコア34
2位	永井　淑子	スコア35
3位	羽鳥　政江	スコア37

まちの声・むらの声

有意義な子どもとの一日

大田町2　海老根　修吾

我が家には長男7才、次男5才、長女10ケ月になる3人の子どもがいます。

普段から一緒に過ごす機会が少なく夏休みもたくさん遊んであげたいと思いながらもなかなか時間をつくれずその事にストレスを感じていました。そんな時に妻から宍戸支部わくわくものづくり体験に申し込んだと話があり一緒に参加する事にしました。

内容は、紙でつくるルービックキューブ、起き上がりこぼしづくり、チラシで作るチリ箱、そして昼食をみんなで食べ、子ども向けの防災に関する話を聞くというものでした。

正直、行くまでは家でも出来る事だろうと思っていましたが、実際参加してみると、普段見る事が出来ない子どもたちの成長を見る事が出来ました。

長男は、同じ学校の友達と一緒に色々意見を出しながら、分からない事は積極的に質問して取り組んでいました。次男は、甘えてばかりのイメージが強かったのですが、一緒に作っている時、「僕がやる。」と私から取り返し彼なりに考え一生懸命作成していました。長女は、周りの人に声をかけられたり、抱っこされたりしても泣かずに良く笑っていました。

お昼のカレーライスは、野菜をよけて食べていたり、防災の話は集中して聞いていなかったりと、まだまだ注意すべき所もみられましたが、この会に参加させていただいて子どもたちの新たな一面に気づかされました。

子どもたちの成長を目にして、父親として何が出来るか、どうあるべきかもう一度考える良い機会となりました。これからもっと子どもたちの新しい一面を見られる機会を私もつくっていこうと思います。

夏休みの子どもたちとの一日をとても有意義に過ごす事が出来ました。

ありがとうございました。

私のさんぽ道

大古山
嶋田　寛文

6時半起床、自宅と旧母屋の雨戸を開け、散歩に出る。

家の土手下に真赤な曼珠沙華が咲いている。彼岸から10日余り、今年は猛暑が続いたせいらしい。

うぐいす色のハイブリット車が通る。数か月前に青年が乗り換えたようだ。この道路は10年ほど前の広域合併で両側に歩道のある2車線道路として完成、日増しに交通量が増え横断が大変になった。

5分ほどで大古山橋に来る。これも合併時に完成した。高さがあるので一面の矢の下田んぼ、かなたの加賀田山、左手の難台山が見渡せ最高の景観、小休止である。

ここから涸沼川沿いに、土地改良区の用水機場の方に歩く。遠く北関東道路が見える。あの大地震で車が止まった景色、3、4日してタンクローリー車が通り、ガソリン不足から解放された安堵感が昨日のように浮かんでくる。

今、散歩の目的は高速道下の横断歩道で小学生の集団登校を見守ること。犬の散歩の延長が、2人の孫との付合いで10年ほど続いてしまった。散歩が私の朝の日課になった。これからも健康で続けたい。

8月18日実施 小学生夏休みものづくりわくわく体験 感想文より

4年　磯　真心

今日は、ごみ箱作りやパズルの作り方を教えてくれてありがとうございました。

家でも、ごみ箱作りいっぱい作ってみたいです。

パズルでは、1～6までそろえるのがあって、5ができなかったので、くやしかったです。家で、5をそろえてみて、クリアしたいです。

5年　長山　明由

今日はとても楽しかったです。キュービックペーパーを作るのはかん単だったけど、数字を合わせるのが思ったよりむずかしかったです。市役所の人の話はとてもためになりました。お昼のカレーもおいしかったです。来年も参加して、いろいろ作りたいと思いました。

6年　田口　里菜

私はこのわくわく教室に来て3回目です。毎年ちがうつくり物をして家ではなかなかつくれないので今年は最後ということもあるのでしっかりと一つ一つ覚えようとしました。とくに、起き上がりこぼしは楽しく作れました。キュービックペーパーはすべてクリアできなかったので家でも考えてクリアしたいです。とても楽しくて良かったです。

地域の楽しみ　福祉バザー

5月25日宍戸小体育館においてバザー開催。

12時に開場すると大勢の方が購入のため入ってきた。食料品、食器類、衣料品等のコーナーに、さっそく品定めをしながらめぐる姿があった。

会場に陳列された品物に値札をつける作業が、事前におこなわれているが、長年この事業にかかわっている方たちから、年々少なくなってきているとの話を耳にする。おつきあいの様子がかわりつつあるのか、返礼品が品薄になってきている。

それにもかかわらず提供してくださる地域の方々に感謝。会を重ねたバザーは、すっかり地域に定着して楽しみにしている人も多く主催者側もやりがいがある。

▲安値に大にぎわい